

町長から行政報告をしました

※一部抜粋

浪江町名誉町民

顕彰式・ 功労者表彰式

文化の日の11月3日、浪江町名誉町民顕彰式・第41回浪江町功労者表彰式を二本松市内にて開催しました。

◆名誉町民顕彰

浪江町名誉町民の称号をお贈りしたのは、浪江町出身の民謡歌手である原田直之氏です。氏は民謡名人位などの輝かしい経歴をお持ちであり、数々の賞を受賞され、日本歌手協会の理事長を務められるなど、郷土の名誉を著しく高められました。

また、故郷に対しては観光親善大使やふるさと浪江会長を務められるなど、震災以前から郷土の発展にご協力いただいております。震災後は物心両面から被災した町民が勇気づけられ、特段のご支援をいただいております。町としては、平成6年の荒義尚様、松浦京様以来20年ぶり、3人目の名誉町民となります。

◆功労者表彰

特別功労表彰は5名の方々に、長年にわたり地域社会における産業振興や、地方自治、学校教育等の分野で日夜尽力された方々、並びに身を挺して震災対応をされた方です。

功労表彰は14名の方々に、地方自治、地方行政、伝統芸能の継承

に日夜尽力された方々、身を挺して震災後の対応をされた方、震災以降浪江町民を援助くださった方です。

善行表彰は31名の方々に、多年にわたり消防団として尽力された方、震災時に模範的な行動をとられた方、震災以降浪江町民を援助くださった方です。

総計50名に賞状および記念品を贈呈し、ご功績を讃えました。

浪江町復興計画

【第一次】の進行 管理および個別 計画の検討



浪江町復興計画【第一次】の着実かつ適切な実施を進めるため、町民協働により計画の進行管理をする部会と、復興計画に掲げたまちづくりの方向性をより具体的にまとめるための個別計画とする部会に分け、検討を進めています。

◆町民協働による進行管理部会

これまで7回の部会を開催し、復興計画に掲げた施策を分野ごとに成果確認、課題抽出、対応策の検討をしてきました。11月6

日の第2回復興計画策定委員会（全体会）において、最終確認を行い町へ提言をいただきました。今後は、いただいた提言内容をしつかりと受け止め、復興・復旧に関する施策への反映をしていきたいと考えています。

◆まちづくり計画検討部会

これまで7回の部会を開催し、帰還に向けたふるさとのみちづくりについて議論を行ってまいりました。

また、10月20日には「ふるさと浪江町を考える懇談会」を福島市において開催し、避難されている皆さんからご意見をいただきました。このたび、これまでの議論をもとにまちづくり計画の中間取りまとめを行いました。

今後、パブリックコメントを実施し、多くの皆さまのご意見を取り入れ、3月上旬を目標に復興まちづくり計画を町に提言していただく予定です。

福島原子力災害

避難区域等帰還・ 再生加速事業・ 「福島避難解除等 区域生活環境整備 備事業」

本年4月1日に区域が再編されたことに伴い、立ち入りされた町民の利便性や安全の確保、町内の防犯・防災および荒廃抑制や保

全、また公共施設の機能回復のため「福島原子力災害避難区域等帰還・再生加速事業」及び「福島避難解除等区域生活環境整備事業」により対策を講じてきました。

9月以降は、防犯対策の更なる強化のため、町内各バリエード設置個所付近へ8台の車番認識防犯カメラの設置、本庁舎の機能回復のための修繕、下水道マンホールポンプ場の設備機能回復のための修繕などを当該事業として実施するため、国との委託契約を締結しました。

今後も当該事業を効果的に活用し町の復旧・復興の加速化を図りたいと考えています。

住民意向調査



8月に復興庁と福島県、浪江町の3者共同で実施した住民意向調査の結果速報が10月4日に発表されました。

世帯の代表者を対象として、9、656世帯に対し郵送により実施しました。このうち回答は6、132世帯、回収率は63・5%でした。

今回の調査の主なる目的は、町外に整備する復興公営住宅の整備戸数の把握と、浪江町への帰還意向の把握、の2つでした。

◆復興公営住宅

希望する28・0%、判断できない36・1%、希望しない34・8%となっており、世代別にみると、高齢者の希望が多い傾向になっています。

また、希望する自治体については、南相馬市577世帯、いわき市479世帯、二本松市302世帯、福島市314世帯、郡山市133世帯となっており、入居を希望する方の総数は2,065世帯となっています。

◆町への帰還の意向

戻りたいと考えている18・8%、判断がつかない37・5%、戻らないと決めている37・5%となっています。

前回の意向調査とは、対象者や設問の内容が異なることから、単純な比較はできませんが、判断がつかない、帰らないという方の割合が増え、町民の皆さんの判断材料となる情報を、より早く提供できるよう努めます。

町外コミュニティ

◆二本松市

油井字根柄山に復興公営住宅の整備を決定し、二本松市と県との間で用地取得に向けた手続きを進めています。県で住宅の配置などの検討をしています。敷地の形状を勘案し、集会所、駐車場を整備した場合、建て方にもよりますが、70〜100戸程度とな

る見込みと聞いています。8月の意向調査では二本松市への希望世帯は302世帯で開きがあるため、追加の用地が必要と考え

ており、追加の候補地の選定を二本松市に要請しています。

◆いわき市

意向調査での希望世帯は479世帯となっています。整備状況としては、先行整備分2地区250戸について平成25年11月19日に着工し、平成26年12月末まで完成予定となっています。

また、11月8日には新たに3地区138戸の整備が発表されました。入居目標年度は平成26年度から平成27年度となっています。いわき市には浜通りの被災自治体住民が多数避難していますので、必要な戸数の整備に向けて取り組んでいくとともに、入居募集に係る内容検討や、必要な生活サービスの確保に向け関係自治体と連携を取っていきます。

◆南相馬市

意向調査によると復興公営住宅を希望する世帯は577世帯となっています。こちらも11月8日に新たに原町区北原と原町区上町の2地区350戸が発表されました。一刻も早く希望者が入居できるように求めています。

◆その他の地域

その他の地域での復興公営住宅整備については、桑折町が平成25年2月13日に締結した協定書

に基づき、町営の復興公営住宅25戸について平成26年度完成を予定し整備を進めています。

また、本宮市からも同市に避難している浪江町民の支援のために市営の復興公営住宅を整備したいとの申し出があります。

町としては、まず南相馬市、いわき市、二本松市の町外コミュニティについてしっかりと整備を進めることとし、その他の地域については応急仮設住宅の一刻も早い解消に向け、国・県にも強く働きかけ、必要な復興公営住宅を早急に確保できるよう取り組みます。



「浪江のこころ通信」 総集編の制作

全国に避難を余儀なくされた町民の皆さんの思いを共有し、町民同士の絆を維持するため、毎月の「広報なみえ」に掲載している「浪江のこころ通信」について、

これまでの掲載分を一冊にまとめた総集編を制作したいと考えています。平成23年7月号から開始した「浪江のこころ通信」には、これまで延べ200人以上の皆さんに登場していただいたお

り、震災から3年を迎える来年3月に合わせて、町民の皆さんに「総集編」を配布し、長期化する避難生活の中の心の支えとして、絆の維持につなげていきたいと考えています。

情報受信とコミュニティ に関するアンケート

7月に情報受信とコミュニティに関するアンケートを実施し、その調査結果がまとまりました。

役場からの情報提供の満足度については、年齢層が高いほど不満を持っているという結果になり、欲しい情報としては、賠償や復興計画、浪江の今、町民の様子などを求めているということがわかりました。

この結果を受け、毎月の広報に、町長のメッセージや賠償に関するコーナーを掲載することや、町のフェイスブックで町民の皆さんの写真を掲載するなど改善に努めており、引き続き、町民の皆さんが求める情報を迅速に提供できるよう取り組みます。

B ー グ ラ ン プ リ

11月9日、10日に愛知県豊川市で開催された、第8回Bーグランプリにおいて、浪江焼麺天国が、参加64団体の中、1位となるゴールドグランプリを獲得しました。

全国各地にバラバラに避難した太国のメンバーが、浪江町の「絆」を維持するために、また風化する震災の記憶を全国に伝えるため、それぞれ避難生活で困難な中でも参加し続けていました。昨年・一昨年はともに4位、今年

は参加4回目において念願のゴールドグランプリを獲得したことは、避難生活を送っている町民にとっても非常に喜ばしいことであり、浪江町の頑張る姿を全国に発信していただけたことと思います。

来年の第9回Bーグランプリは、郡山市で開催されます。本来なら「愛Bリーグ」に加盟している団体が所在する自治体しか開催できないところですが、今回は復興支援の特別大会として、浪江町と郡山市・愛Bリーグとの連携により実行委員会を立ち上げ、福島ので開催することになりました。

町としてもホスト町として、浪江町を全国に発信できるように準備を進めて行きたいと考えています。

浪江町消防団 秋季検閲式

10月6日、平成25年度浪江町消防団秋季検閲式を挙行了しました。昨年行われた秋季検閲式同様、二本松市東和地区の浪江中学校体育館にて実施しましたが、団長以下102名の消防団員が避難先から参加しました。

式典では3年ぶりに団長表彰が行われ、功績賞として9名、精勤賞として23名の団員が受賞しました。

行方不明者の 一斉捜索

10月11日、双葉警察署主催による行方不明者の一斉捜索が行われました。

震災から2年半の節目でもあることから、浪江町からも地区住民の方々を含め、消防団員、議会議員、町職員など35名の方が参加し、警察署、消防署と合同で、主に請戸海岸を中心に行方不明者の捜索活動を行いました。

立入休憩施設の開設

10月1日、一時立入りのための休憩施設を、それまでの「サンシャインなみえ」から、介護老人保健施設「貴布祢」へ移設しました。「貴布祢」のホールおよび和室に

テール・長机を準備したほか、浄化槽設置による水洗トイレの整備、さらに飲料用の自動販売機やウォーターサーバーを設置し、立入者の利便性の向上に努めています。

なお、9月のサンシャインなみえの月間利用者数133名に比べ、10月の貴布祢利用者数は357名でした。

防災行政無線の復旧

区域再編に伴い、これまでより浪江町内への立入が緩和されたことから、防災体制の強化のため、防災行政無線の復旧工事を優先的に行ってきましたが、津波流失分6基の新設、また既存53基の子局の復旧工事が終了し、10月1日から全基稼働しました。

町内に立ち入りされている方には、今後、防災情報や緊急情報等を防災行政無線により迅速に広報しますので、注意を払っていただきたいと思います。

浪江町ADR 集団申立て

10月24日まで第4次の申立が終了し、申立者数は、15、313名・世帯数は6、489世帯となりました。

浪江町ADR集団申立ての、現在までの経過および今後の予定についての住民説明会を、11月30日に二本松、12月8日に南相馬市

で行い、12月21日はいわき市で行う予定です。

農業、水産業

農業や水産業については、町広報誌でもご案内していますが、それぞれの業の再生に向け動きが出てきています。

農業は浪江町地域農業再生協議会、水産業は浪江町水産業協働委員会にて担い手である町民の方々と、活発に意見交換をしています。

そういったなか、農業では農業者が主体となった、浪江町の農業・農地を考える会が9月に発足し、浪江町内の視察を含め、これまで3回の会合を重ねた中で、荒廃した農地の保全や新たな農業の選択肢についての話し合いが行われています。

町の再生は行政だけでは成し得ませんので、以上のような取り組みを実践することで、住民協働のまちづくりを推し進めていきます。

浪江町内での 事業再開状況



◆町内での事業者の活動状況(11月末現在)
9月定例会で報告して以降、町

内で新たに再開した事業者はいませんが、大手コンビニのセブンイレブン、ローソン、ファミリーマートより事業再開の相談がありました。町内の除染作業員を対象とした営業を検討しているとのことで、浪江町商工会へもそういった動きがあることを伝え、町内にあった小売業の再開についても、改めて打診をしました。

◆町内で操業していた大手製造業への企業訪問

町内で操業していた大規模工場の浪江日立化成工業、浪江日本ブレイキ、エスエス製薬をそれぞれ訪問し、いずれ浪江町に帰還して再操業していただくために、社の代表者と意見交換をしました。

各社とも、現時点では先行きが不透明であるため再開の確約はできないものの、何らかの形で協力したい旨のお話はいただきました。こういった企業に浪江町へ戻ってきてもらえるよう、いち早く町内の環境を整えていく必要があることを再認識したところであり、引き続き、町内にあった企業を引き留めるための意見交換等を実施します。

浪江町内の除染の 進捗状況

酒田行政区において、本格除染

工事は発注済みであり、現在、仮置場の造成中で、来年の3月末までに面的除染が完了します。

また、大堀取水場、大堀配水池、末ノ森配水池、末ノ森中継ポンプ場、北部衛生センターの先行除染工事の発注も済みであり、来年の3月末までに作業を終える予定です。

次に、除染業務発注に必要な条件が整った高瀬行政区・立野下行政区の本格除染および町内全域の共同墓地並びに国道114号の拠点除染の工事については、現在入札の公告中で、来年早々の発注予定です。

仮置場が確保されていない他の行政区についても、引き続き仮置場の確保に向け関係行政区長と相談をしながら進めています。

今後とも、本格除染対象となる住民の皆様へ丁寧に説明し、仮置場の確保および除染作業へのご理解・ご協力をお願いしたいと考えています。

また、帰還困難区域の除染モデル事業の進捗状況ですが、赤字木地区は、除染工事および除染直後のモニタリングが終了しており、現在データの整理中です。

また、大堀地区・井手地区は、現在約95%の進捗状況となっております。年末に除染工事および除染直後のモニタリングが終了しま

震災等ガレキ処理

棚塩地区・請戸地区において、ガレキ処理に伴う仮置場・仮設焼却減容化施設設置計画の住民説明会を経て、現在、仮置場用地の土地使用の補償契約事務を環境省と進めています。

また、倒壊危険家屋の解体撤去工事についても、環境省が指定した緊急性のある5棟の家屋について、10月より解体の工事に着手し、11月末に工事が完了しました。

◆津波被災ガレキ

11月20日より請戸小学校、マリパークなみえ内に集積したガレキの選別作業に着手しています。敷地内でのガレキの選別作業であり、運搬等がない作業となっています。

また、津波不明者や思い出の品等の発見も想定されることから、丁寧な作業を実施していただき、来年度の3月20日までに完了する予定です。

◆4大家電回収

12月号広報なみえの折り込み等にて、回収方法を町民の皆さまへ周知したところです。

請戸共同墓地整備

整備箇所の文化財試掘調査、地質調査、用地測量が完了し、現在、用地の取得事務を進めています。一日も早い墓地整備完了を

町民の健康管理



実現し、利用者の皆様が安心してお墓参りや納骨ができるよう事務を進めています。

震災後、避難生活が長期化するにつれ、運動量の減少、食習慣の変化、精神的ストレス、睡眠障害等により、生活習慣病の増加が懸念されます。

適度な運動、規則正しい食生活に心掛けるなど、生活習慣の改善に努められるようお願いいたします。

◆健康診査や検査の実施状況

弘前大学に依頼し行っている初期被ばく検査については、772名の採血が終了し染色体の解析が終了し、全員異常なしという結果が出ています。

◆内部被ばく検査

10月末現在、延べ18、411名の方が検査を受けており、昨年度以降検査された方全員が、預託実効線量1mSv未満となっています。

◆甲状せん検査

10月末現在、町および県を併せ、延べ4、420名の方が検査を受けられており、5月に1名の甲状せん癌の発症が県より報告されましたが、それ以降新たな発

症例は報告されていません。

◆総合医療センター(仮称)建設事業

二本松市内の復興公営住宅建設に併せ整備を予定している総合医療センター(仮称)建設事業については、10月末に基本設計委託業務を発注したところです。今後、町外コミュニティに必要な生活サービスとして、整備を進めます。

災害弔慰金

災害弔慰金等の支給に関して、平成23年3月11日津波および地震により直接死亡された方が184名、うち支給対象者が171名となっています。11月末現在、申出受理件数が171件、支払件数は同じく171件です。

また、災害関連死に関する弔慰金は、現在、双葉地方災害弔慰金審査委員会において、関連死の可否について審査をお願いしているところであり、11月末現在、申出受理件数が362件、うち審査件数が333件、うち認定件数が309件、支払件数が301件です。

敬老祝金

本年度満100歳になられる6名の賀寿の方々をはじめ、満80歳以上の高齢者1,909名の方に敬老祝い金、総額1千4百92万5千円をお贈りし、皆さまの長寿

浪江町戦没者追悼式・慰霊祭

浪江町戦没者追悼式・慰霊祭は2年ごとに開催していましたが、平成21年11月が浪江町での最後の開催となりました。

23年度は、震災のため見送りととなり、今年度4年ぶりに11月7日、二本松市ほうりん斎場で挙行了しました。

来賓・遺族100名の参加者により、800有余柱の御霊をご慰霊しました。

民生委員・児童委員の委嘱

民生委員・児童委員については、本年12月1日をもって3年ごとの一斉改選をむかえました。

町民すべてが長期広域避難を強いられているこの厳しい状況の中で、社会福祉に対するご理解と熱意を持ってお引き受けいただいた59名の皆さまに、12月2日に委嘱状を伝達しました。

町民交流事業

◆県内交流会

10月5日に南相馬市、11月21日に福島市、11月27日に白河市で開催し、約150名が参加され、多くの町民が交流しています。

◆県外交流会

11月9日に山梨県甲府市、11月30日に茨城県那珂市で開催しました。

交流会では、町からの現状報告後に、国道114号線沿いの津島から浪江までの最近の風景や休憩施設「貴布祿」等の写真をスクリーンに映して、町の様子を見ていただきました。

◆復興支援員関係

9月14日に初めて山形、千葉、埼玉、新潟、京都5力所の支援員および支援員サポート団体合同の復興支援員推進会議を郡山市で開催し、それぞれの地域の取組みや課題等を共有しました。翌日に、現在の町内の状況も視察し、支援員にとって県外避難者への支援に繋がる貴重な研修の場となりました。

◆応急仮設住宅

11月末現在、建設戸数2、893戸に対して入居戸数が2、251戸、入居人数は4、296人、入居率は77・8%です。

◆県内の特例借上げ住宅の状況

会津地方が136戸338人、中通り地方が2、392戸5、360人、浜通り地方が1、460戸2、806人、合計3、988戸8、504人です。

◆仮設住宅の一斉点検

管理者である県の発注により、11月11日から調査が進められており、年末までには点検完了の予定で、完了した団体から順次修繕等が実施されます。

町としても、8月下旬から独自に実施した点検結果および自治会長等からの報告等を取りまとめ、県に対し早急かつ適切な修繕について要望していきます。

◆県内の借上げ住宅の契約期間

平成26年3月31日までになつており、対象物件である約4、000件について、現在、再契約事務を進めています。

なお、供与期間は1年の延長で、平成27年3月31日までとなっています。

◆避難指示区域への立ち入り

11月末現在、浪江町通行証8、896件、車や同乗者の変更2、116件、浪江町臨時通行証7、219件を発行しています。

8月にはお墓参り等の申請が多く、臨時通行証1、469件を発行しました。

また、10月17日から20日の4日間のバス立入りについては、82世帯114名から申し込みがあり、実績は72世帯94名の立入りとなっています。

公益立入りについては、9月294件、10月641件、11月557件の発行実績となっています。

教育行政



◆浪江町長長
避難生活が長期化する中でス

ポーツを通じて繋がりが合い励まし合おうと、浪江町長杯の各種大会が9月26日開催の第2回ゲートボール大会を皮切りに全4種目で開催されました。

県内外に避難している町民は近況を話し合うなど、親睦を深め楽しい雰囲気です。

なお、ゲートボール、グラウンドゴルフ、ソフトボール、家庭婦人バレーボールの4種目に、延べ人数で227名が参加しました。

◆第7回福島県市町村対抗軟式野球大会

浪江町チームの初戦となる試合が9月29日に福島市のあづま球場で行われました。

相手チームは1回戦で富岡町を破って勝ち上がった南相馬市で、浪江、南相馬とも好投手を擁することから緊迫した試合運びとなりました。

浪江町チームは粘り強い攻撃で再三の得点チャンスを得ましたが決定打に欠け、相手から1点をもぎ取られて惜敗しました。避難生活で全員が集まった練習ができないという状況で、監督も選手もふるさと浪江への熱い思いを胸に戦った好試合でした。

◆第25回市町村対抗福島県縦断駅伝大会

11月17日に白河市と福島市の間で行われました。原発事故による全町避難が3年目となる今年、浪江町のチーム

ながら散会しました。

◆復興なみえ町十日市祭

11月23日から24日の両日に、JR二本松駅前周辺を会場に開かれ、浪江小学校と浪江中学校の子どもたちが学習成果などを発表しました。浪江小学校では全校児童による和太鼓の演奏、浪江中学校ではよさこい踊りが発表され、会場に詰めかけた大勢の観客から盛んな拍手が送られました。

◆地域伝統芸能全国大会福島大会ふるさとの祭り2013

9月14日と15日に、いわき市で「震災からのこころの復興」をテーマに「ふるさとの祭り2013」が実施され、浪江町からは大堀芸能保存会、南津島郷土芸術保存会の2団体が出場いただきました。

また、10月27日には青森県八戸市で第55回北海道東北ブロック民俗芸能大会が開催され、福島県代表として室原郷土芸能保存会が出演され、民俗芸能の保存活動に対する感謝状を受けられました。12月1日には震災以来請戸芸能保存会に出場いただいていた本宮市民俗芸能大会に、今年も南津島郷土芸術保存会に出場いただきました。いずれの団体も会員同士が全国に分散している中でも、郷土芸能の継承と地域のつながりを維持するために力を尽くされ、住民の方々に地域・ふるさとを思う心や、お互いの存在の大切さを伝えていただきました。